



システム メッセージ ログिंगの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- システム メッセージ ログिंगの概要, 1 ページ
- システム メッセージ ログिंगのライセンス要件, 3 ページ
- システム メッセージ ログिंगの注意事項および制約事項, 3 ページ
- システム メッセージ ログिंगのデフォルト設定, 3 ページ
- システム メッセージ ログिंगの設定, 4 ページ
- DOM ログिंगの設定, 15 ページ
- システム メッセージ ログिंगの設定確認, 16 ページ

システム メッセージ ログिंगの概要

システム メッセージ ログングを使用して宛先を制御し、システム プロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。端末セッション、ログファイル、およびリモートシステム上の Syslog サーバへのログングを設定できます。

システム メッセージ ログングは [RFC 3164](#) に準拠しています。システム メッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『*Cisco NX-OS System Messages Reference*』を参照してください。

デフォルトでは、Cisco Nexus デバイスはメッセージをターミナルセッションへ出力します。

デフォルトでは、スイッチはシステム メッセージをログ ファイルに記録します。

次の表に、システム メッセージで使用されている重大度を示します。重大度を設定する場合、システムはそのレベル以下のメッセージを出力します。

表 1: システムメッセージの重大度

レベル	説明
0: 緊急	システムが使用不可
1: アラート	即時処理が必要
2: クリティカル	クリティカル状態
3: エラー	エラー状態
4: 警告	警告状態
5: 通知	正常だが注意を要する状態
6: 情報	単なる情報メッセージ
7: デバッグ	デバッグ実行時にのみ表示

重大度 0、1、または 2 の最新のメッセージを 100 個まで不揮発性 RAM (NVRAM) ログに記録します。NVRAM へのログは設定できません。

メッセージを生成したファシリティと重大度に基づいて記録するシステムメッセージを設定できます。

Syslog サーバ

syslog サーバは、syslog プロトコルに基づいてシステムメッセージを記録するよう設定されたリモートシステムで稼働します。最大 8 台の syslog サーバにログを送信するように Cisco Nexus シリーズスイッチを設定できます。

ファブリック内のすべてのスイッチで syslog サーバの同じ設定をサポートするために、Cisco Fabric Services (CFS) を使用して syslog サーバ設定を配布できます。



(注) スイッチを最初に初期化する場合、ネットワークが初期化されてからメッセージが Syslog サーバに送信されます。

システムメッセージロギングのライセンス要件

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	システムメッセージロギングにライセンスは不要です。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべてCisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『 <i>Cisco NX-OS Licensing Guide</i> 』を参照してください。

システムメッセージロギングの注意事項および制約事項

システムメッセージは、デフォルトでコンソールおよびログファイルに記録されます。

システムメッセージロギングのデフォルト設定

次の表に、システムメッセージロギングパラメータのデフォルト設定を示します。

表 2: デフォルトのシステムメッセージロギングパラメータ

パラメータ	デフォルト
コンソールロギング	重大度 2 でイネーブル
モニタロギング	重大度 2 でイネーブル
ログファイルロギング	重大度 5 のメッセージロギングがイネーブル
モジュールロギング	重大度 5 でイネーブル
ファシリティロギング	イネーブル
タイムスタンプ単位	秒
Syslog サーバロギング	ディセーブル
Syslog サーバ設定の配布	ディセーブル

システムメッセージログの設定

ターミナルセッションへのシステムメッセージログの設定

コンソール、Telnet、およびセキュアシェルセッションに対する重大度によって、メッセージを記録するようスイッチを設定できます。

デフォルトでは、ターミナルセッションでログはイネーブルです。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# terminal monitor	コンソールから現在の端末セッションに syslog メッセージをコピーします。
ステップ 2	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config)# logging console [severity-level]	指定された重大度（またはそれ以上）に基づくコンソールセッションへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうが大きい重大度を示します）。重大度は 0～7 の範囲です。 <ul style="list-style-type: none"> • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。</p>
ステップ 4	switch(config)# no logging console [severity-level]	（任意） コンソールへのログメッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	switch(config)# logging monitor [severity-level]	指定された重大度（またはそれ以上）に基づくモニターへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>小さいほうが大きい重大度を示します)。重大度は0～7の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0: 緊急 • 1: アラート • 2: クリティカル • 3: エラー • 4: 警告 • 5: 通知 • 6: 情報 • 7: デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの2が使用されます。</p> <p>設定はTelnetおよびSSHセッションに適用されます。</p>
ステップ 6	<code>switch(config)# no logging monitor [severity-level]</code>	<p>(任意)</p> <p>Telnet および SSH セッションへのメッセージログをディセーブルにします。</p>
ステップ 7	<code>switch# show logging console</code>	<p>(任意)</p> <p>コンソール ログ設定を表示します。</p>
ステップ 8	<code>switch# show logging monitor</code>	<p>(任意)</p> <p>モニタ ログ設定を表示します。</p>
ステップ 9	<code>switch# copy running-config startup-config</code>	<p>(任意)</p> <p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。</p>

次に、コンソールのログレベルを3に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 3
```

次に、コンソールのログの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging console
Logging console:          enabled (Severity: error)
```

次に、コンソールのログをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging console
```

次に、ターミナルセッションのログレベルを4に設定する例を示します。

```
switch# terminal monitor
switch# configure terminal
switch(config)# logging monitor 4
```

次に、ターミナルセッションのログの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
Logging monitor:                enabled (Severity: warning)
```

次に、ターミナルセッションのログをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging monitor
```

ファイルへのシステムメッセージログの設定

システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定できます。デフォルトでは、システムメッセージはファイル log:messages に記録されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]	システムメッセージを保存するのに使用するログファイルの名前と、記録する最小重大度を設定します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。重大度は0～7の範囲です。 <ul style="list-style-type: none"> • 0: 緊急 • 1: アラート • 2: クリティカル • 3: エラー • 4: 警告 • 5: 通知 • 6: 情報 • 7: デバッグ

	コマンドまたはアクション	目的
		ファイルサイズは 4096 ~ 10485760 バイトです。
ステップ 3	<code>switch(config)# no logging logfile [logfile-name severity-level [size bytes]]</code>	(任意) ログファイルへのログギングをディセーブルにします。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は 5 です。ファイルサイズは 4194304 です。
ステップ 4	<code>switch# show logging info</code>	(任意) ログギング設定を表示します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は 5 です。ファイルサイズは 4194304 です。
ステップ 5	<code>switch# copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging logfile my_log 6 size 4194304
```

次の例は、ログギング設定の表示方法を示しています（簡潔にするため、一部の出力が削除されています）。

```
switch# show logging info
Logging console:          enabled (Severity: debugging)
Logging monitor:         enabled (Severity: debugging)

Logging timestamp:       Seconds
Logging server:          disabled
Logging logfile:         enabled
Name - my_log: Severity - informational Size - 4194304
Facility      Default Severity      Current Session Severity
-----
aaa           3                               3

afm           3                               3
altos        3                               3
auth         0                               0
authpriv     3                               3
bootvar      5                               5
callhome     2                               2
capability   2                               2
cdp          2                               2
cert_enroll  2                               2
...
```

モジュールおよびファシリティメッセージのログギングの設定

モジュールおよびファシリティに基づいて記録するメッセージの重大度およびタイムスタンプの単位を設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging module [<i>severity-level</i>]	<p>指定された重大度またはそれ以上の重大度であるモジュール ログメッセージをイネーブルにします。重大度は0～7の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告 • 5 : 通知 • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの5が使用されます。</p>
ステップ 3	switch(config)# logging level facility severity-level	<p>指定された重大度またはそれ以上の重大度である指定のファシリティからのロギングメッセージをイネーブルにします。重大度は0～7です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告 • 5 : 通知 • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、allファシリティを使用します。デフォルト値については、show logging level コマンドを参照してください。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) コンポーネントのデフォルトの重大度と現在のセッションにおける重大度が同じ場合、コンポーネントのログレベルは実行コンフィギュレーションに表示されません。
ステップ 4	<code>switch(config)# no logging module [severity-level]</code>	(任意) モジュール ログ メッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	<code>switch(config)# no logging level [facility severity-level]</code>	(任意) 指定されたファシリティのロギング重大度をデフォルトレベルにリセットします。ファシリティおよび重大度を指定しないと、スイッチはすべてのファシリティをデフォルトレベルにリセットします。
ステップ 6	<code>switch# show logging module</code>	(任意) モジュール ロギング設定を表示します。
ステップ 7	<code>switch# show logging level [facility]</code>	(任意) ファシリティごとに、ロギングレベル設定およびシステムのデフォルトレベルを表示します。ファシリティを指定しないと、スイッチはすべてのファシリティのレベルを表示します。
ステップ 8	<code>switch# copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、モジュールおよび特定のファシリティメッセージの重大度を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging module 3
switch(config)# logging level aaa 2
```

ロギングタイムスタンプの設定

Cisco Nexus シリーズスイッチによって記録されるメッセージのタイムスタンプの単位を設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging timestamp { microseconds milliseconds seconds }	ログ タイムスタンプ単位を設定します。デフォルトでは、単位は秒です。
ステップ 3	switch(config)# no logging timestamp { microseconds milliseconds seconds }	(任意) ログ タイムスタンプ単位をデフォルトの秒にリセットします。
ステップ 4	switch# show logging timestamp	(任意) 設定されたログ タイムスタンプ単位を表示します。
ステップ 5	switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

次に、メッセージのタイムスタンプ単位を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp milliseconds
switch(config)# exit
switch# show logging timestamp
Logging timestamp: Milliseconds
```

syslog サーバの設定

システムメッセージの記録先のリモートシステムを参照する syslog サーバを最大で 8 台設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<p>logging server host [<i>severity-level</i> [use-vrf <i>vrf-name</i> [facility <i>facility</i>]]]</p> <p>例： switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf default facility local3</p>	<p>ホストが syslog メッセージを受信するように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>host</i> 引数は、syslog サーバホストのホスト名または IPv4 または IPv6 アドレスを示します。 • <i>severity-level</i> 引数は、指定したレベルに syslog サーバへのメッセージのログを制限します。重大度は 0 ~ 7 の範囲です。表 1：システムメッセージの重大度、(2 ページ) を参照してください。 • use vrf <i>vrf-name</i> キーワードと引数は、仮想ルーティングおよび転送 (VRF) 名の <i>default</i> または <i>management</i> 値を示します。特定の VRF が指定されない場合は、<i>management</i> がデフォルトです。ただし、<i>management</i> が設定されているときは、それがデフォルトであるため、show running コマンドの出力には表示されません。特定の VRF が設定されている場合、show-running コマンドの出力には、各サーバの VRF が表示されます。 <p>(注) 現在の Cisco Fabric Services (CFS) 配信では VRF をサポートしていません。CFS 配信がイネーブルの場合、デフォルト VRF で設定されているログサーバは管理 VRF として配布されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>facility</i> 引数は syslog ファシリティタイプを指定します。デフォルトの発信ファシリティは local7 です。 <p>ファシリティは、使用している Cisco Nexus シリーズソフトウェアのコマンドリファレンスに記載されています。</p> <p>(注) デバッグは CLI ファシリティですが、デバッグの syslog はサーバに送信されません。</p>
ステップ 3	<p>no logging server ホスト</p> <p>例： switch(config)# no logging server 172.28.254.254 5</p>	<p>(任意) 指定されたホストのログサーバを削除します。</p>
ステップ 4	<p>show logging server</p> <p>例： switch# show logging server</p>	<p>(任意) Syslog サーバ設定を表示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5
use-vrf default facility local3
```

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf management facility local3
```

UNIX または Linux システムでの syslog の設定

/etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、UNIX または Linux システム上に Syslog サーバを設定できます。

```
facility.level <five tab characters> action
```

次の表に、設定可能な syslog フィールドを示します。

表 3: *syslog.conf* の *syslog* フィールド

フィールド	説明
Facility	メッセージの作成者。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0 ~ local7 です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。これらのファシリティ指定により、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できます。 (注) ローカルファシリティを使用する前に設定をチェックします。
Level	メッセージを記録する最小重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emerg です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。none を使用するとファシリティをディセーブルにできます。

フィールド	説明
Action	メッセージの宛先。ファイル名、前にアットマーク (@) が付いたホスト名、カンマで区切られたユーザリストです。アスタリスク (*) を使用するとすべてのログインユーザを指定します。

手順

- ステップ 1** /etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、ファイル /var/log/myfile.log に local7 ファシリティのデバッグメッセージを記録します。
- ```
debug.local7 /var/log/myfile.log
```
- ステップ 2** シェルプロンプトで次のコマンドを入力して、ログファイルを作成します。
- ```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```
- ステップ 3** 次のコマンドを入力して、システムメッセージロギングデーモンが myfile.log をチェックして、新しい変更を取得するようにします。
- ```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

## syslog サーバ設定の配布の設定

Cisco Fabric Services (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク内の他のスイッチへ Syslog サーバ設定を配布できます。

Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにすると、配布設定をコミットする前に Syslog サーバ設定を変更し、保留中の変更を表示できます。配布がイネーブルである限り、スイッチは Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を維持します。



- (注) スイッチを再起動すると、揮発性メモリに保存されている syslog サーバ設定の変更は失われることがあります。

### はじめる前に

1 つまたは複数の syslog サーバを設定しておく必要があります。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                      | 目的                                                                                                                                                                   |
|--------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                 | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                                                                           |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>logging distribute</b>         | CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワークスイッチへの syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。デフォルトでは、配布はディセーブルです。                                                                                      |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>logging commit</b>             | ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をコミットします。                                                                                                                 |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>logging abort</b>              | Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。                                                                                                                                     |
| ステップ 5 | switch(config)# <b>no logging distribute</b>      | (任意)<br>CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワークスイッチへの syslog サーバ設定の配布をディセーブルにします。設定変更が保留中の場合は、配布をディセーブルにできません。logging commit および logging abort コマンドを参照してください。デフォルトでは、配布はディセーブルです。 |
| ステップ 6 | switch# <b>show logging pending</b>               | (任意)<br>Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を表示します。                                                                                                                                |
| ステップ 7 | switch# <b>show logging pending-diff</b>          | (任意)<br>syslog サーバ設定の保留中の変更に対して、現在の syslog サーバ設定との違いを表示します。                                                                                                          |
| ステップ 8 | switch# <b>copy running-config startup-config</b> | (任意)<br>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。                                                                                                                    |

## ログファイルの表示およびクリア

ログファイルおよびNVRAMのメッセージを表示したり消去したりできます。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                   | 目的                                                                                                                       |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>show logging last</b><br><i>number-lines</i>                                                                        | ロギング ファイルの最終行番号を表示します。<br>最終行番号には 1 ~ 9999 を指定できます。                                                                      |
| ステップ 2 | switch# <b>show logging logfile</b><br>[ <b>start-time</b> yyyy mmm dd<br>hh:mm:ss] [ <b>end-time</b> yyyy mmm<br>dd hh:mm:ss] | 入力されたスパン内にタイム スタンプがあるロ<br>グ ファイルのメッセージを表示します。終了時<br>間を入力しないと、現在の時間が使用されます。<br>月の時間フィールドには3文字を、年と日の時間<br>フィールドには数値を入力します。 |
| ステップ 3 | switch# <b>show logging nvram</b> [ <b>last</b><br><i>number-lines</i> ]                                                       | NVRAM のメッセージを表示します。表示される<br>行数を制限するには、表示する最終行番号を入力<br>できます。最終行番号には 1 ~ 100 を指定できま<br>す。                                  |
| ステップ 4 | switch# <b>clear logging logfile</b>                                                                                           | ログ ファイルの内容をクリアします。                                                                                                       |
| ステップ 5 | switch# <b>clear logging nvram</b>                                                                                             | NVRAM の記録されたメッセージをクリアしま<br>す。                                                                                            |

次に、ログ ファイルのメッセージを表示する例を示します。

```
switch# show logging last 40
switch# show logging logfile start-time 2007 nov 1 15:10:0
switch# show logging nvram last 10
```

次に、ログ ファイルのメッセージをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch# clear logging nvram
```

## DOM ロギングの設定

### DOM ロギングのイネーブル化

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                      | 目的                               |
|--------|-----------------------------------|----------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b> | グローバル コンフィギュレーション モードを<br>開始します。 |

|        | コマンドまたはアクション                                       | 目的                                                 |
|--------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| ステップ 2 | switch(config)# <b>system ethernet dom polling</b> | トランシーバデジタルオプティカルモニタリング (DOM) の定期的なポーリングをイネーブルにします。 |

次に、DOM ログングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system ethernet dom polling
```

## DOM ログングのディセーブル化

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                          | 目的                                                  |
|--------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                     | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                        |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>no system ethernet dom polling</b> | トランシーバデジタルオプティカルモニタリング (DOM) の定期的なポーリングをディセーブルにします。 |

次に、DOM ログングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no system ethernet dom polling
```

## DOM ログング設定の確認

| コマンド                                           | 目的                                                      |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| <b>show system ethernet dom polling status</b> | トランシーバデジタル オプティカル モニタリング (DOM) の定期的なポーリング ステータスが表示されます。 |

## システム メッセージ ログングの設定確認

システム メッセージのログング設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。



| コマンド                                                                                                                          | 目的                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| <b>show logging console</b>                                                                                                   | コンソールロギング設定を表示します。            |
| <b>show logging info</b>                                                                                                      | ロギング設定を表示します。                 |
| <b>show logging ip access-list cache</b>                                                                                      | IPアクセスリストキャッシュを表示します。         |
| <b>show logging ip access-list cache detail</b>                                                                               | IPアクセスリストキャッシュに関する詳細情報を表示します。 |
| <b>show logging ip access-list status</b>                                                                                     | IPアクセスリストキャッシュのステータスを表示します。   |
| <b>show logging last</b> 回線番号                                                                                                 | ログファイルの末尾から指定行数を表示します。        |
| <b>show logging level</b> [ <i>facility</i> ]                                                                                 | ファシリティロギング重大度設定を表示します。        |
| <b>show logging logfile</b> [ <b>start-time</b> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> ] [ <b>end-time</b> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> ] | ログファイルのメッセージを表示します。           |
| <b>show logging module</b>                                                                                                    | モジュールロギング設定を表示します。            |
| <b>show logging monitor</b>                                                                                                   | モニタロギング設定を表示します。              |
| <b>show logging nvram</b> [ <i>last number-lines</i> ]                                                                        | NVRAMログのメッセージを表示します。          |
| <b>show logging pending</b>                                                                                                   | Syslogサーバの保留中の配布設定を表示します。     |
| <b>show logging pending-diff</b>                                                                                              | Syslogサーバの保留中の配布設定の違いを表示します。  |
| <b>show logging server</b>                                                                                                    | Syslogサーバ設定を表示します。            |
| <b>show logging session</b>                                                                                                   | ロギングセッションのステータスを表示します。        |
| <b>show logging status</b>                                                                                                    | ロギングステータスを表示します。              |
| <b>show logging timestamp</b>                                                                                                 | ロギングタイムスタンプ単位設定を表示します。        |

